

令和 8 年度  
香川高等専門学校  
単位互換科目履修案内



香川高専



令和8年度 香川高等専門学校の単位互換科目について、下記のとおり募集します。

## 1 単位互換の制度について

香川大学と香川高等専門学校（以下「香川高専」といいます。）は、相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として授業科目の単位互換協定を締結しています。

この協定により、香川大学の学生の皆さんが、香川高専の授業科目を履修し、そこで修得した単位を、香川大学が単位として認定するものです。

この制度により受け入れられた学生は、香川高専では「特別聴講学生」となります。

## 2 授業料について

この特別聴講学生については、検定料、入学料、授業料及び単位認定試験料の納付は必要ありません。

（ただし、実験・実習・実技等にかかる教材費等については、実費を徴収する場合があります。）

## 3 単位互換履修対象授業科目・受入人数・集合場所

履修対象授業科目は、別紙「シラバス」記載のとおりです。

受入人数は、若干名です。受講希望者多数（本校希望者含む）の場合は、受入できない場合がありますので、ご了承ください。

集合場所は受講決定後、連絡します。

## 4 手続方法等

### （1）受講者の資格

香川大学の学生で香川大学が許可した方は、どなたでも受講の資格があります。

### （2）履修期間

履修する授業科目の開講期間とします。

### （3）履修手続

#### ①「単位互換科目履修願」等の提出

履修を希望する科目について「単位互換科目履修願」及び「写真票」を下記期間内に香川大学へ提出して下さい。

**提出期限 令和8年 4月 14日（火）【前期授業開始日 4月 7日】**

#### ②科目履修の許可

本校において、単位互換科目履修願により選考を行い、その結果を香川大学に連絡します。出願者へは香川大学から科目履修の許可が通知されます。

#### ③特別聴講学生証

特別聴講学生は、本校が発行する特別聴講学生証の交付を受け、本校の施設・設備等を利用する際に携帯しなければなりません。

#### ④履修の辞退

単位互換科目の履修許可を受けたものが、やむを得ない理由で履修を辞退する場合は香川大学を通じ辞退届を速やかに提出しなければなりません。

(4) 試験の実施方法

受験上の取扱い及び追試験の実施等については、本校学則等によります。  
詳細は各科目担当教員の指示に従って下さい。

(5) 単位認定

本校の評価基準による成績通知に基づき、香川大学の授業科目の履修単位として認定  
されます。

成績証明書は、原則として香川大学が発行します。

## 5 その他

(1) 本校の授業時間割について

1コマ 8 : 50 ~ 10 : 20

2コマ 10 : 30 ~ 12 : 00

3コマ 12 : 50 ~ 14 : 20

4コマ 14 : 30 ~ 16 : 00

この単位互換の実施についての詳細は、香川大学の担当窓口まで問い合わせして下さい。

ア ク セ ス マ ッ プ ACCESS MAP



詫間キャンパス アクセスルート

- JR 詫間駅からの交通
  - ・ 詫間駅前バス停留所より三豊市コミュニティバス「詫間線 名部戸行き」または「詫間三野線大浜行き」に乗車し、約20分後、「香川高専前」バス停にて下車
- JR 岡山・児島駅からの交通
  - ・ JR 岡山駅から JR 詫間駅間、約 90 分
  - ・ JR 児島駅から JR 詫間駅間、約 60 分
- 通学のための最寄り駅からの距離
  - ・ JR 詫間駅から詫間キャンパス間、約 6km
- 高松自動車道からの交通
  - ・ (東方面よりお越しの場合) 三豊島坂インターチェンジより約 20 分
  - ・ (西方面よりお越しの場合) さぬき豊中インターチェンジより約 30 分
- 高松空港からの交通
  - ・ 高松空港より車で約 60 分

詫間キャンパス

〒769-1192 香川県三豊市詫間町香田 551  
TEL.0875-83-8506

高松キャンパス アクセスルート

- JR 高松駅からの交通
  - ・ JR 高松駅バスターミナル⑤番バス乗り場より「③栗林公園・由佐・岩崎行き」に乗車、約 25 分後「小山」①バス停にて下車、徒歩約 10 分
  - ・ JR 高松駅バスターミナル⑤番バス乗り場より「⑦栗林公園・御蔵・県立プール行き」乗車、約 30 分後「香川高専前」②バス停にて下車
- JR 岡山・児島駅からの交通
  - ・ JR 岡山駅から JR 高松駅間、約 60 分
  - ・ JR 児島駅から JR 高松駅間、約 30 分
- 通学のための最寄り駅からの距離
  - ・ JR 高松駅から高松キャンパス間、約 7km
  - ・ JR 栗林駅から高松キャンパス間、約 5km
  - ・ JR 端岡駅から高松キャンパス間、約 5km
  - ・ ③コトデン円座駅から高松キャンパス間、約 4km
  - ・ ④コトデン伏石駅から高松キャンパス間、約 4km
- 高松自動車道からの交通
  - ・ (西方面よりお越しの場合) 高松西インターチェンジより約 7 分
  - ・ (東方面よりお越しの場合) 高松権紙インターチェンジより約 5 分
- 高松空港からの交通
  - ・ 高松空港より車で約 20 分

高松キャンパス

〒761-8058 香川県高松市勅使町 355  
TEL.087-869-3811

香川高等専門学校長 殿

下記のとおり貴校の授業科目を履修したいので出願します。

記

1. 出願者

所属大学 学籍番号		ふりがな 氏名		年 月 日生	男・女
所属大学 学部・学科等	大学	学部 科	学科 課程	第 学年次	
現住所	(〒 - )				
電話番号		携帯電話 (PHS)			
電子メール		※特別聴講学生 学籍番号			

※過去(現在)本校において履修許可された者のみ記入して下さい

2. 出願科目等

開設学科	学科	担当教員		※科目 コード	
科目名					
単位数		開講区分	前期・後期・通年・集中		
出願理由					

※本校において記入します

3. 本校における他科目の出願状況等

今回出願する 科目を希望順 に記入	1	前期・後期・通年・集中	単位
	2	前期・後期・通年・集中	単位
	3	前期・後期・通年・集中	単位
	4	前期・後期・通年・集中	単位
現在受講中、 又は過去に受 講した科目を 新しい順に記 入	1	平成 年度 前期・後期・通年・集中	
	2	平成 年度 前期・後期・通年・集中	
	3	平成 年度 前期・後期・通年・集中	
	4	平成 年度 前期・後期・通年・集中	

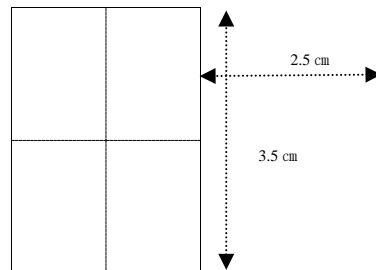
(注) この単位互換科目履修願は1科目について1枚提出して下さい。

これ以下は記入しないで下さい

審査結果	許可	不許可	学籍番号	
推薦順位 (高専序列)		推薦順位 (科目序列)		

# 写真票 (特別聴講学生用)

## 写真票



※ 特別聴講学生学籍番号

--

※この欄は記入しないで下さい。

正面上半身のカラー写真を中心線に合わせて貼り付けて下さい。

所属大学	
所属大学 学籍番号	

氏名	
生年月日	年 月 日生

複数科目を履修する場合でも1人、1部だけの提出で結構です。

香川高等専門学校		開講年度	令和08年度 (2026年度)	授業科目	防災工学	
科目基礎情報						
科目番号	255163		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設環境工学科 (2019年度以降入学者)		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 石井一郎著 防災工学 森北出版, 参考書: 淵田邦彦著 防災工学 コロナ社					
担当教員	向谷 光彦					
到達目標						
1.地震, 火山, 津波, 気象災害, 防災地質および都市火災における基礎知識が説明できる。 2.環境災害, 計画都市, 災害対策, インフラにおける基礎知識が説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
地震, 火山, 津波, 気象災害, 防災地質および都市火災における基礎知識が説明できる。	地震, 火山, 津波, 気象災害, 防災地質および都市火災における幅広い知識が説明できる。	地震, 火山, 津波, 気象災害, 防災地質および都市火災における基礎知識が説明できる。	地震, 火山, 津波, 気象災害, 防災地質および都市火災における基礎知識が説明できない。			
環境災害, 計画都市, 災害対策, インフラにおける基礎知識が説明できる。	環境災害, 計画都市, 災害対策, インフラにおける幅広い知識が説明できる。	環境災害, 計画都市, 災害対策, インフラにおける基礎知識が説明できる。	環境災害, 計画都市, 災害対策, インフラにおける基礎知識が説明できない。			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 2						
教育方法等						
概要	地盤工学等で学んだ自然災害論, 地震, 耐震設計に関する基礎知識を深め, より現実的な災害の抑止, 軽減に関連した内容に進展する。そして, 防災に関する基礎的な知識を理解できる能力を涵養する。また, 平常授業 (演習・レポートを含む) に対する真摯な取り組み態度を涵養する。					
授業の進め方・方法	授業内容は必要最小限の項目にとどめる。授業内容の理解を助けたり深めたりするために必要に応じてパソコンを用いた視覚的教材使用, 演習や平常テストを実施し, その理解度・習得度を確認しながら授業を進め, 全員が授業内容を理解できるよう配慮する。 この科目は学修単位のため, 授業外学習として, 授業内容についてのレポート課題を課す。					
注意点	・特になし。					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	防災工学に関するイントロダクション 概論			
		2週	地震①	地震における基礎知識が説明できる。		
		3週	地震②	地震における基礎知識が説明できる。		
		4週	火山	火山における基礎知識が説明できる。		
		5週	津波	津波における基礎知識が説明できる。		
		6週	気象災害①	気象災害における基礎知識が説明できる。		
		7週	気象災害②	気象災害における基礎知識が説明できる。		
		8週	定期試験	地震, 火山, 津波および気象災害における基礎知識が説明できる。		
	2ndQ	9週	防災地質	防災地質における基礎知識が説明できる。		
		10週	都市火災	都市火災における基礎知識が説明できる。		
		11週	環境災害	環境災害における基礎知識が説明できる。		
		12週	防災計画都市	防災計画都市における基礎知識が説明できる。		
		13週	災害対策 インフラストラクチャーとライフライン	災害対策における基礎知識が説明できる。インフラストラクチャーとライフラインにおける基礎知識が説明できる。		
		14週	防災・観光に関する社会実装	防災・観光等に関する社会実装の基礎知識が説明できる。		
		15週	定期試験	防災地質, 都市火災, 環境災害, 計画都市, 災害対策, インフラにおける基礎知識が説明できる。		
		16週	試験返却	防災地質, 都市火災, 環境災害, 計画都市, 災害対策, インフラにおける基礎知識が説明できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	
				平均の速度, 平均の加速度を計算することができる。	3	
				直線および平面運動において, 2物体の相対速度, 合成速度を求めることができる。	3	
				等加速度直線運動の公式を用いて, 物体の座標, 時間, 速度に関する計算ができる。	3	
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	

			物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3	
			自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
			水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
			物体に作用する力を図示することができる。	3	前2,前3,前5,前6,前8,前11,前13,前15,前16
			力の合成と分解をすることができる。	3	前2,前3,前5,前6,前8,前11,前13,前15,前16
			質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3	前2,前3,前5,前6,前8,前11,前13,前15,前16
			重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	前2,前3,前5,前6,前8,前11,前13,前15,前16
			フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	前2,前3,前5,前6,前8,前11,前13,前15,前16
			慣性の法則について説明できる。	3	前2,前3,前4,前6,前8,前9,前11,前13,前15,前16
			作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前13,前15,前16
			運動の法則について説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前10,前11,前13,前15,前16
			運動方程式を用いた計算ができる。	3	前2,前3,前4,前6,前8,前9,前11,前13,前15,前16
			簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。	3	前2,前3,前4,前6,前8,前10,前13,前15,前16
			静止摩擦力がはたらいっている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	前2,前3,前13,前15,前16
			最大摩擦力に関する計算ができる。	3	前2,前3,前4,前13,前15,前16
			動摩擦力に関する計算ができる。	3	前2,前3,前4,前13,前15,前16
			仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	前2,前3,前4,前6,前8,前11,前13,前15,前16
			物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	前2,前3,前4,前6,前8,前11,前13,前15,前16
			重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	前2,前3,前4,前6,前8,前11,前13,前15,前16
			弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	前2,前3,前4,前6,前8,前12,前13,前15,前16

				力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	前2,前3,前4,前6,前8,前12,前13,前15,前16
				物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3	
				運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。	3	
				運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	
				周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3	前2,前3,前4,前8,前12,前15,前16
				単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3	前2,前3,前4,前8,前15,前16
				等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3	前2,前3,前4,前8,前15,前16
				万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3	前2,前4,前6,前8,前11,前12,前13,前15,前16
				万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
				力のモーメントを求めることができる。	3	
				角運動量を求めることができる。	3	
				角運動量保存則について具体的な例を挙げて説明できる。	3	
				剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	3	前2,前3,前4,前6,前8,前11,前12,前13,前15,前16
				重心に関する計算ができる。	3	
				一様な棒などの簡単な形状に対する慣性モーメントを求めることができる。	3	
				剛体の回転運動について、回転の運動方程式を立てて解くことができる。	3	
			熱	原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について説明できる。	3	
				時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを説明できる。	3	
				熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。	3	
				物体の熱容量と比熱を用いた計算ができる。	3	
				動摩擦力がする仕事は、一般に熱となることを説明できる。	3	
				ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を用いて、気体の圧力、温度、体積に関する計算ができる。	3	
				気体の内部エネルギーについて説明できる。	3	
				熱力学第一法則と定積変化・定圧変化・等温変化・断熱変化について説明できる。	3	
			波動	波の振幅、波長、周期、振動数、速さについて説明できる。	3	前2,前3,前4,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
				横波と縦波の違いについて説明できる。	3	前2,前3,前4,前8,前11,前12,前13,前15,前16
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野	地盤	土の粒径・粒度分布やコンシステンシーを理解し、地盤材料の工学的分類に適用できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
				土の締め固め特性を説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
				ダルシーの法則を説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
				透水係数と透水試験について、説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
				透水力による浸透破壊現象を説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16

			土のせん断試験を説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
			土のせん断特性を説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
			土の破壊規準を説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
			有効応力の原理を説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
			ランキン土圧やクーロン土圧を説明でき、土圧算定に適用できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
			基礎の種類とそれらの支持力公式を説明でき、土の構造物の支持力算定に適用できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
			斜面の安定計算手法を説明でき、安全率等の算定に適用できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
			飽和砂の液状化メカニズムを説明できる。	4	前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
			地盤改良工法や液状化対策工法について、説明できる。	4	前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
			地盤調査の分類と内容について、説明できる。	4	前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
		施工・法規	工事執行までの各プロセスを説明できる。	4	前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
			施工計画の基本事項を説明できる。	4	前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
			品質管理、原価管理、工程管理、安全衛生管理、環境管理の仕組みについて、説明できる。	4	前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
			建設機械の概要を説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
			主な建設機械の作業能力算定法を説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
			土工の目的と施工法について、説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
			掘削と運搬および盛土と締固めの方法について、説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16
			基礎工の種類別に目的と施工法について、説明できる。	4	前4,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
			コンクリート工の目的と施工法について、説明できる。	4	前4,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16

				型枠工・鉄筋工・足場支保工・打設工の流れについて、説明できる。	4	前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
				トンネル工の目的と施工法について、説明できる。	4	前6,前8,前9,前11,前12,前13,前15,前16

評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
地震, 火山, 津波, 気象災害	35	15	0	0	0	0	50
防災地質, 都市火災, 環境災害, 計画都市, 災害対策, インフラ	35	15	0	0	0	0	50